精神科特集③

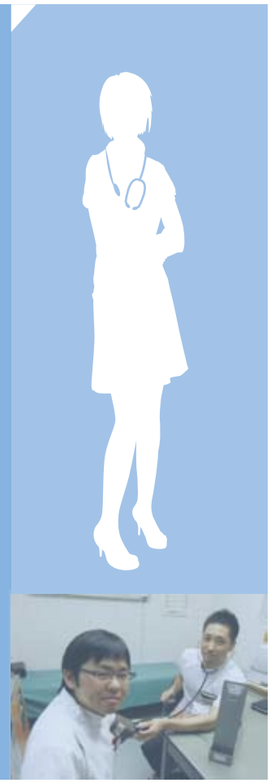
医師だけじゃない!?

精神科医療に携わる職業紹介

7

精神科では医師をはじめとして様々な職業の人々が働いています。今回はそれらの人々の中から、医師を支える７つの職業についてどんな仕事をしているのかをご紹介いたします。

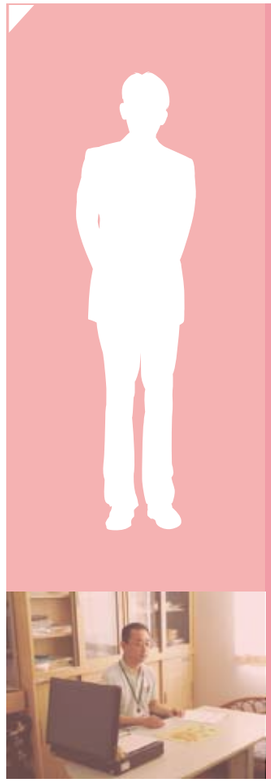
看護師
nurse



皆さんは精神科の看護の現場をイメージしにくいかもしれませんが、実際には患者さんの精神的な症状などから生じる心と体、生活上の様々な問題に対して、１人１人の個別性を大切にしながら、食事の工夫や清潔の保持、内服薬や金銭の管理、環境の調整などの援助を行っています。また精神科では「対話」を看護の基本におき、患者さんの薬や病気に対する思いや疑問、退院後の生活に対する不安や困り事などについて一緒に考え、安心して治療に取り組んでもらえるように関わっています。また近頃はチームアプローチと呼ばれる関わり方が主流になっており、入院中だけでなく、退院後も地域でその人らしい生活が送れるように看護師が中心となり多職種で支援しています。このように看護師は患者さんと多職種をつなぎ、患者さんとご家族とのコミュニケーションが円滑に進むように働きかける「橋渡し」の役割も担っています。

（文：小松 博文 : 写真右）

心理判定員
clinical psychologist



心理判定員とは公務員の中で心理業務を行う職員の呼称です。主な仕事は「心の問題」を抱えた人に接し、その人の特徴や問題点を捉え、カウンセリング等の技法によって問題解決の手助けをすることです。業務としては大きく４つに分けられます。

1）心の特徴・問題点を探る (心理アセスメント)…面接・観察・心理テスト等を行い、その人の特徴や問題点をとらえ、必要な援助について検討する。　2）心理カウンセリング…その人の特徴に応じて、カウンセリングや心理療法等の臨床心理的技法を用いて、問題の改善や援助を行う。　3）臨床心理学的地域援助…個人のみにではなく学校や職場などにも働きかけ、援助を行う。また、地域社会に対しても生活環境の改善の提案や情報提供を行う。　4）調査・研究活動

当院では１名が児童思春期相談、１名が精神科デイケアを担当しています。

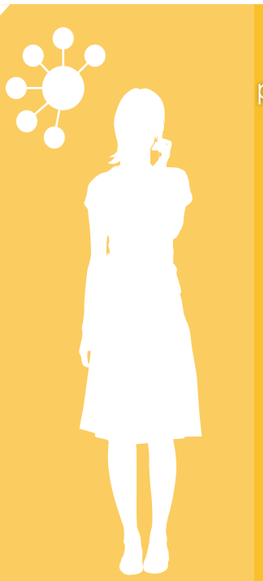
（文：西村 竜実）

管理栄養士
nuturition manager

栄養士の業務は、入院患者への食事提供と栄養管理になります。食事提供部門は民間の給食会社に委託していますので、献立のチェックと管理が主になります。精神科というと、よく一般科との違いを聞かれたりしますが、「精神科だから特別なものを作っている」というわけではありません。ただ、精神科では精神疾患と身体合併症や生活習慣病の治療で、どちらを優先するかは患者の状況により変わってきます。重篤な患者は精神症状の改善が最優先になりますし、患者自身も食事どころではなかったりします。患者が落ち着いてから医師・看護師より患者の精神状態に適した食事対応が可能か相談を受けます。これからが栄養管理の本番になります。業務で一般科との違いが大きいのは、他の職種との共同作業が多いことでしょうか。社会復帰支援のために作業療法士と協力して料理教室を行ったり、病棟と協力してバザーの出し物を作ったりします。一緒に作業をするため、普段の情報交換も気兼ねなくできるのがいいところです。

（文：高橋 俊裕）

精神保健福祉士
psychiatric social worker



精神保健福祉士は、精神的な症状によって起こる、日常の困り事や問題点について相談にのりながら、福祉的な視点で一緒に解決方法を考えていく専門の相談員のことです。

例えば、「医療費が支払えなくて困った」、「退院後の生活について不安がある」といった治療面以外にも出てくる様々な生活面の不安や悩みについても話を聴き、他機関・多職種と連携をとりつつ患者さん本人や家族の支援をしています。

病院で治療していくことで、１人１人の患者さんその家族の皆さんには、大なり小なり悩みであったり不安であったりが出てくると思います。そのような悩みを一人で、そして家族で抱え込まず、一緒に共有していきながら、気軽に相談できる相談室を目指しておりますので、困った時はぜひご相談ください。

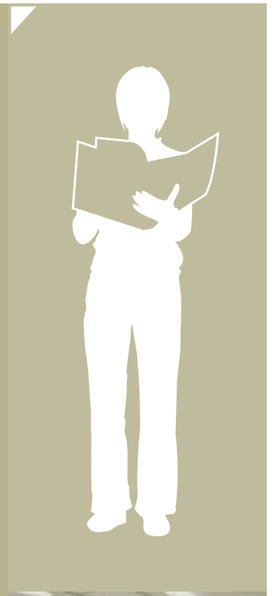
（文：笹岡 亮佑）

薬剤師
pharmacist

精神科医療における薬剤師業務は他の診療科の業務と大きな違いはありません。異なる点とするならば、治療を受ける患者の疾患に対する病識・認知度に差がみられることです。薬物療法が治療の基本となりますが、安全で効果的な薬物療法の実施のために副作用、相互作用、重複投与などのチェックを行う薬剤師の関与が必要となります。抗精神病薬にみられる副作用で過鎮静、自律神経症状、錐体外路症状等は、ときに患者に大きな苦痛を与え、結果として服薬が継続できない、症状の悪化・再燃などを引き起こすこととなります。患者さん自身が様々な副作用を回避し、あるいは副作用が発生した場合においても的確な対応が可能になるように、精神科における薬剤師の行う服薬指導は、繰り返し薬剤に関する情報を提供することで、薬物に関する知識の増加と不安の払拭、服薬の継続に対するモチベーションを向上させ、服薬の中断と再発予防に有効であると考えられます。

（文：岡崎 信樹）

臨床検査技師
clinical technologist



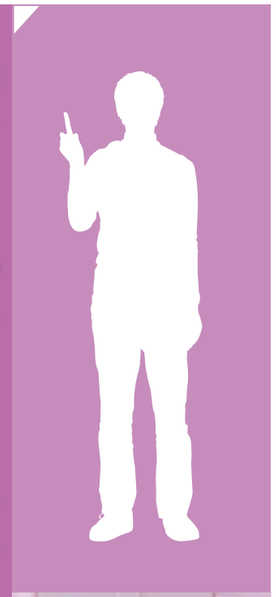
診察を受けた時に、「血液を採って調べましょう」などと言われたことがありますか。臨床検査技師は、疾患の診断や治療をする上で必要である様々な検査を行っています。

血液を分析機にかけ、貧血や血糖、肝機能などを調べたり、血液や尿に見られる細胞や細菌を顕微鏡で観察し臨床へ報告しています。この他にも安全に輸血を行うための検査や感染症の起因となる細菌を調べる検査も行っています。

また心電図検査や脳波検査のように、直接患者さんに接して行う検査もあります。初めて検査を受けられる時は、「どんな検査だろう。痛いかな…」と色々不安があるかと思います。私たちは、患者さんにリラックスして検査を受けて頂けるよういつも心がけておりますので、心配なことや検査についてわからない点がありましたら、ご遠慮なく声をかけてください。

（文：雑賀 智子）

作業療法士
occupational therapist



作業療法とは、対象者となる方の症状や目的に合わせて様々な活動 (作業) を一緒に行いながら、身体や気分の回復を助けるための精神科リハビリテーションの一つです。私たちは誰もが日常の中で様々な活動 (食べる・運動する・入浴する・眠るなど) を行い、生活を営んでいます。作業療法士はそういった諸活動を訓練の手段として用い、患者さんの持っている力を最大限発揮できるようお手伝いをしています。

例えば精神科では、病気が脳の働きに影響し、意欲や集中力が阻害されることがあります。作業療法では、活動を通じて意欲を引き出したり、環境や方法を調整しながらより集中できるように支援していきます。また作業療法の中で人との交流を通じて薬だけでは解決できない生活上の様々な悩みや困難なことに立ち向かえるようになり、退院後の社会生活をより良くおくる手助けとなります。

※写真では、筋力の維持 / 向上を目的にダンベル運動を行なっています。

（文：山本 信平）